

第6学年 音楽科学習指導案

場 所 6年1組教室
 児 童 男19名 女17名 計36名
 指 導 者 木 村 純 子

1 題材名

いろいろな和音のひびきを感じ取る

「星の世界」川路柳虹日本語詞／コンバース作曲／飯沼信義編曲（歌唱）

「雨のうた」鹿谷美緒子作曲（器楽）

「和音の音で旋律づくり」（音楽づくり）

2 題材の指導構想

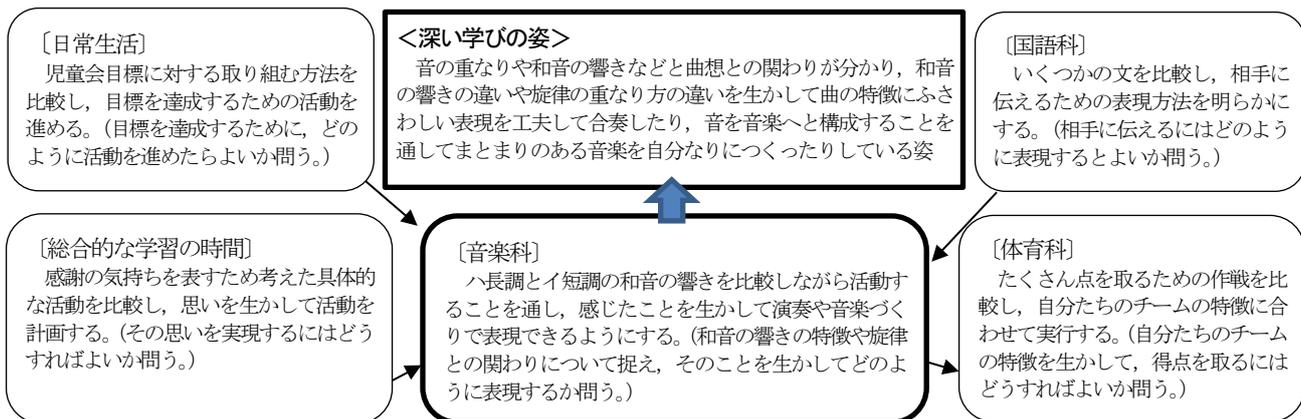
学習指導要領	子供の経験	子供の資質・能力
<p>学習指導要領</p> <p>表現1) ア 歌唱についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。 ウ (イ) 呼吸及び発声の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>表現2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり ウ (ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>表現3) ア (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。 イ (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ウ (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p> <p>共通事項ア 和音の響き 音の重なり 調 旋律 リズム イ 音楽の縦と横との関係 変化</p>	<p>子供の経験</p> <p>5学年の時にハ長調の和音について学習し、歌唱や音楽づくりを体験しているが、それらがどのような場面で生かされ、生活を潤い豊かにしているかについてはあまり意識していない。 身の回りにある音楽と学習したことが実感として結び付いていない。しかし、様々な音楽の仕組みについて知ろうとする意欲はある。</p>	<p>子供の資質・能力</p> <p>共通事項を要としながら学習材のよさや美しさ、面白さを捉えることで、音楽に対する興味を抱いて学習するようになってきた。その際、自分の感性を大切にしながら友達と交流することで考えを深めていく姿も見られるようになってきている。ただ、豊かに表現するには至っていない。</p>

学習の系統性 (学習前)	題材について	学習の系統性 (学習後)
<p>5学年 「和音の移り変わりを感知取ろう」 ハ長調の和音を学習し、和音の移り変わりを感知取りながら合奏をした。音の上がり下がりやつなげ方を工夫しながら、日本の音階を使って旋律をつくった。</p>	<p>題材について</p> <p>本題材では、それぞれのパートの役割を意識しながら合唱や合奏をしたり、和音の音を使って旋律づくりをしたりする活動を通して、和音の響きの違いやそれらが移り変わることに伴って生まれる表情の変化を感じ取りながら、音楽活動に必要な基礎的な能力を養うことをねらいとしている。日常的に主旋律を歌ったり演奏したりする際に伴奏などで重なる様々な音には、いくつかの基本形があり、それらがぴったり重なった時に美しい響きとなる。パートの役割を知り実際に演奏したり仕組みを理解し音楽づくりをしたりする活動を行うことによって、和音のもつ響きの美しさが実感できるものと考えられる。</p> <p>そこで、本題材では、共通事項〔和音の響き〕を要として、〔音の重なり〕〔調〕〔旋律〕〔リズム〕〔音楽の縦と横との関係〕〔変化〕を扱い、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」を組み合わせ題材を構成した。「歌唱」の学習では、和音の響きやその移り変わりの美しさを味わったり、斉唱や合唱といったそれぞれの演奏形態の美しさを味わったりしながら合唱する。「器楽」の学習では、合奏全体の響きを豊かにする和音のパートについて、パートの役割と関連付けて学習し、長調と短調の和音の移り変わりやその響きの美しさを味わいながら演奏する。「音楽づくり」の学習では、和音に含まれる音を使った旋律づくりを通して、和音の響きを味わい、友達と交流しながら様々な響きの豊かさを実感する。このことで、音や音楽に深く関わる子供の育成が図られると考えた。</p>	<p>中学校 和音の移り変わりを感知取りながら、歌唱表現や器楽表現を創意工夫したり、和声進行をベースにして旋律創作に取り組んだりする。</p>

3 指導にあたって

そこで、音や音楽に豊かに関わる子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びの実現に向かう題材構成

- ・ 題材を通して、和音の響きの違いやそれらが移り変わることによって生まれる表情の変化を感じ取りながら表現していくことができるように、共通事項〔和音の響き〕を要として、〔音の重なり〕〔調〕〔旋律〕〔音楽の縦と横との関係〕を扱い、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」を組み合わせた題材を構成する。
- ・ 和音によって生み出される音楽の豊かさを実感し、考えを深めていけるように、題材の初めには、三部合唱で互いの声を聴き合いながら響きのある声で歌う活動と、器楽合奏で表現の工夫を交流しながら演奏する活動を行う。その上で、音楽づくりにおいて、それぞれのパートの役割や音が重なった時の響きの違いについて実感したことを発表し合う場を設ける。
- ・ 題材のつながりとして、第一次で和音の響きを感じ取りながら三部合唱したことや、第二次で和音の響きを生かして表現を工夫しながら演奏した「雨のうた」をもとに、必要な知識・技能を振り返りながら和音に含まれる音を使った旋律づくりを行う。また、他者と共に音楽を深めていくことができるように、それぞれの旋律を聴き合い、感じたことを交流する場を位置付ける。
- ・ 和音の響きを生かした音楽の豊かさについて興味・関心を高めていけるように、音楽が様々な場面に使われていることについて考え、学びを整理・振り返る場を設定する。

視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ 曲に興味や憧れをもち、自分事の問いをもって音や音楽と関わりをもっていけるように、これから演奏する曲の題名と実際の場面とを関わらせたり曲の一部分を聴いたりするなどの出会いの場面を設定する。また、学習した後に、その時間にできたことや次にしたいことを話し合うことで次時の課題を設定するなどして、つながりのある学びにしていくようにする。
- ・ 歌唱や器楽演奏、音楽づくりを通して和音の響きを実感することができるように、和音の仕組みや音の重なり方、音楽の縦と横との関係について理解するための視覚化する手立て（楽譜、和音カード、画像、Google（ソングメイカー）など）を講じる。
- ・ 表現するよさや楽しさ、新たな方法を生み出すことができるように、他者と課題を解決する方法を考えたり、音楽や言葉を通してコミュニケーションを図りながら共有・共感したりする場を位置付けたりする。

4 題材の指導計画

(1) 目標

- ・ 和音の響きと曲想との関わりを理解して、互いの音を聴き合いながら合わせて表現する技能や、和音に含まれる音を使って旋律をつくる技能を身に付ける。【知識及び技能】
- ・ 和音の響きの移り変わり、短調と長調の響きや旋律の重なり方の違いなどと曲想との関わりについて考え、それにふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 和音の響きの違いや移り変わりを生かして表現したり、つくった旋律を交流したりして気付いたことを伝え合ったりする学習に主体的に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 曲想と旋律の特徴、音の重なりと和音の響き、調、音楽の縦と横との関係との関わりについて理解している。</p> <p>② 響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や和音の響きやその移り変わり、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。</p> <p>③ 曲想と楽器の音の重なりや和音の響き、調、音楽の縦と横との関係との関わりを理解し、響きに気を付けて演奏する技能や各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。</p>	<p>① 旋律、音の重なり、和音の響きやその移り変わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、各声部のバランスなど、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② 楽器の音の重なりや和音の響きの移り変わり、ハ長調とイ短調、音楽の縦と横との関係との関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさに関連付けて考え、和音の響きの違いや旋律の重なり方の違いを生かして曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図をもっている。</p> <p>③ 和音の中の音を選び、それらをつなげた旋律づくりを通して、和音の響きの移り変わりや旋律の動きを関連付けて、その際に生まれるよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、まとまりを意識した音楽をつくることに思いや意図をもっている。</p>	<p>① 歌声が重なり合う響きの美しさに興味・関心をもち、互いの声を聴き合いながら、友達の歌声の美しさを見付けたり、よりよい歌声を目指して練習したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 長調と短調の和音の響きの違いや美しさに興味・関心をもち、必要に応じて繰り返し範奏を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして演奏する学習や、和音の響きの美しさを味わいながら表現方法を自分なりに考えるなどして演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ 和音の響きやその移り変わりへの興味・関心を深め、よりよい旋律をつくるために、何度も試しながら和音に含まれる音を使った旋律づくりに進んで取り組もうとしている。</p>

(3) 指導計画 (8時間)

段階	主な学習活動	指導の手立て	考え方の めづり	評価規準 (評価方法)
第一次	1 題名から星の世界の情景を想像してから曲を聴く。 2 旋律の特徴を話し合い、特徴を生かして主旋律を歌う。 3 旋律の動きに気を付けながら、副次的な旋律を歌う。 和音の響きの魅力を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> 情景を捉え、曲への興味をもつことができるようにイメージを膨らませる話し合いの場をもつ。 三部合唱への意欲を高めるようにするために、音の重なり注目して聴くように促す。 三部合唱に取り組みやすくするために、それぞれの旋律の特徴を比べながら歌うように促す。 	比較	【態①→ 発言、観察】 【知①→ 発言、演奏、観察】
	1 主な旋律と副次的な旋律の重なりを聴き取って合唱する。 2 グループに分かれて聴き合う。	<ul style="list-style-type: none"> 和音の響きが感じられるように、旋律の重ね方の組み合わせを提示する。また、聴く役を立てて、客観的に聴いて捉えた和音の重なりや響きの様子をみんなに伝え、始めの練習の時の歌声と比べながら練習するように促す。 	比較	【思①→ 発言、演奏、観察】
	1 互いのパートや伴奏の響きを聴きながら、合唱する。 2 グループになって発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 和音の響きに気を付けて歌うようにするために、正しい発声の仕方や発音で歌えるように支援する。 題名の「星の世界」と三部合唱の響きの美しさを関連付けて、イメージを膨らませて表現豊かに歌うように促す。 	関連付け	【知②→ 演奏、観察】
第二次	1 題名から雨の様子について話し合い、曲の変化に気を付けながら「雨のうた」を聴く。 2 5学年で学習したハ長調に加え、感じ方の違いと結び付けながらイ短調について理解する。 3 主な旋律を演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> 雨のイメージを膨らませ調の変化に気付くようにするために、どの部分から変化するか気を付けながら聴くように促す。 ハ長調とイ短調との響きの感じの違いの仕組みが理解できるように、和音の仕組みについて図を用いて確かめる。 旋律をしっかり覚えることができるように、楽譜を指でたどる、ハミングをする、演奏順を確認などを促す。 イ短調からハ長調に変化することで醸し出される曲の魅力と和音の響きとの関わりを理解できるように、主な旋律を演奏し、教師の和音の伴奏に合わせて演奏を促す。また、感想を話し合う機会を設けることで課題を設定する。 	関連付け	【態②→ 発言、演奏、観察】
	1 カノンのようになっていたりぴったり重なったりしている旋律の特徴を知り、音楽の縦と横の関係を意識しながら演奏する。 2 和音と低音のパートを演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> 主な旋律と副次的な旋律のように、同一の旋律や異なる旋律が意図的にずれて演奏されたり、重なって演奏されたりするなどの音楽の表し方が、音楽の縦と横との関係にあたることを理解できるように、楽譜に書き込むなどして演奏と楽譜を関連付けて示す。 へ音譜表の読み方を全員で確かめるようにする。 音の重なりやハ長調とイ短調の和音の響きを意識できるように、小節の始めだけをそろえて出すなどして練習するように促す。 	関連付け	【知③→ 発言、演奏、観察】
	1 どんな感じの演奏にするかグループで話し合い、音色、パートを決め、練習する。 2 グループごとに発表し、感想を交流する。 3 演奏の工夫について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの演奏を聴いて、和音の響きを観点としながらよさを交流し合うように働きかける。 音の重なりやハ長調とイ短調の和音の響きを意識できるように、様々な和音が主な旋律を支えていることの想起を促し、使われている和音をカードや楽譜でもう一度確かめる。 次時の音楽づくりへとつなげることができるように、和音と旋律の関わりについて振り返るように促す。 	比較	【思②→ 発言、演奏、観察】
第三次	1 ハ長調の曲を聴く。 2 4小節の旋律をつくる。 3 旋律を修正する。 4 友達と交流する。 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> I IV V₇ I の和音の移り変わりを感じ取りながら、和音の中の音をつなげて旋律づくりをするという課題意識をもつことができるように、ハ長調 I IV V₇ I の和音に合わせて、1つの音だけでできた旋律といくつかの音でできた動きのある旋律を提示して比較する場を設ける。 旋律の音の動きを視覚的に確認できるように、選んだ音を表に書き入れるように促す。 まとまりのある旋律づくりができるように、今まで学習したリズムの種類を書いた紙や旋律の仕組みが分かるような楽譜を提示する。 まとまりのある旋律づくりができるように、音選びをしたり旋律の形をつくりかえたりしたものを、何度も試して聴き比べながら工夫していくように促す。 和音の響きに合わせた旋律のそれぞれのよさを共有できるように、自分の演奏と比べながら聴くように促す。 	比較	【態③→ 発言、観察】 【思③→ 発言、観察、ノート】
	1 旋律を発表し、よさを交流する。 2 和音の美しさや身の回りの音楽について話し合い、まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の歌や自分の好きな曲などのよさを学習したことと結び付けて考えるように促す。 	関連付け	【思③→ ノート】

5 本時の指導計画

(1) 目標

和音の響きを生かした旋律づくりを通して、和音の響きの移り変わりや旋律の動きを関連付けて、全体のまとまりを意識した音楽をつくることに思いや意図をもつ。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
和音の中の音を選び、それらをつなげた旋律づくりを通して、和音の響きの移り変わりや旋律の動きを関連付けて、その際に生まれるよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、まとまりを意識した音楽をつくることに対する思いや意図をもっている。 [思考・判断・表現]	自分の考えをもてず活動が上手くできない子供に対しては、黒板の工夫を参考にするように声をかけたり、友達の考えを取り入れながらつくるように促したりして支援する。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料等
導入 (8分)	1 ハ長調の I IV V ₇ I の和音の移り変わりに合わせた2つの旋律を比べて聴く。 2 本時の課題を把握する。 和音の移り変わりを感 じ取りながら、和音の中 の音をつなげて旋律をつ くろう。	<ul style="list-style-type: none"> 和音の移り変わりに合わせて音の選び方を変えて旋律をつくると、様々な雰囲気を出すことができることに気付く、旋律づくりに興味関心をもてるようにする。そのため、I IV V₇ I の和音に合わせて、1つの音だけでできた旋律といくつかの音でできた動きのある旋律を比較するように促す。 本時のねらいにあったまとまりのある音楽づくりができるように、5年生までに学習した旋律づくりの約束(旋律のカード、リズムカード)にも触れる。 <p>手立て①</p> <p>I IV V₇ I の和音の移り変わりを感 じ取りながら、和音の中の音をつなげて 旋律づくりをするという課題意識をもつことができるように、ハ長調 I IV V₇ I の和音に合わせて、1つの音だけでできた旋律といくつかの音でできた動きのある旋律を提示して比較する場を設ける。</p>	パソコン ミニキ ーボー ド
	展開 (30分)	3 見通しをもつ。 4 4小節の旋律をつくる。 (1) 鍵盤ハーモニカでつ くる。 (2) パソコンに記録して 聴きながら修正する。	<ul style="list-style-type: none"> スムーズに旋律づくりができるように、約束(4/4拍子、選ぶ音はI I IV V₇ I から1音ずつ、長さは)と手順(鍵盤ハーモニカで音を出しながら選ぶ、プリントにメモをする、和音の音源に合わせてつくった旋律を試す、パソコンに記録して修正する)を整理する。 どの音を選ぶか実際に音に出して確かめられるように、始めは鍵盤ハーモニカで音探しをするように促す。 旋律の音の動きを視覚的に確認できるように、選んだ音を表に書き入れるように促す。 和音の移り変わりや♪でつくった旋律の関わりを捉えることができるように、パソコンに録音された和音(ロイロノート)に合わせて鍵盤ハーモニカで演奏するように促す。 自分の思いが旋律に表れるようにするために、和音と合わせて演奏した旋律をパソコンに記録(ソングメーカー)し、何度も繰り返し聴きながら、♪や♪などで音数を増やしていく場面を設定する。 <p>手立て②</p> <p>和音の響きの移り変わりや旋律の動きを関連付けて、まとまりのある旋律をつくることできるように、音選びをしたり旋律の形をつくりかえたりしたものを、何度も試して聴き比べながら工夫していくように促す。(「どんな旋律の形にするとよいか」「音数を増やせるところはないか」問う。)</p>
5 友達と交流する。 6 全員で交流する。		<ul style="list-style-type: none"> 同じ和音の移り変わりでも、つくる人の思いで違った感じになることが確かめることができるように、おすすめポイントはどこかを訪ねながら交流するように促す。 和音の伴奏と自分の旋律を重ねて演奏した時の響きを感じ取ることができるように、何人かの作品を教師の和音に合わせて演奏する活動を取り入れる。 	
まとめ (7分)		7 学習を振り返る。 私は、低い音から始まって3小節目で和音が大きく変化する所が山になるように旋律をつくりました。また、4分音符を使ってゆったりとした感じになりました。和音に合わせて演奏したら、もっと響きがよくなって、流れるような旋律になりました。〇〇さんの旋律は、最後の旋律が上がっているのだから遠くに響く感じでした。	<p>◇ 和音の中の音を選び、それらをつなげた旋律づくりを通して、和音の響きの移り変わりや旋律の動きを関連付けて、その際に生まれるよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、まとまりを意識した音楽をつくることに対する思いや意図をもっている。 【思へ発言、ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りの観点を、旋律の工夫と友達のよい点として記述するように促す。